

 第6回 縮小社会研究会

# 江戸時代の生活 -持続可能な循環型社会だったか？-

2015年9月5日

日本基督教団根津教会(東京都文京区)

鬼頭 宏(静岡県立大学)

# 要約：歴史に学び、未来に備える

1. 21世紀日本は人口減少の時代。しかし「未曾有」の出来事ではない。過去にも人口減退の時代があった。
2. 人口減退の時代は文明システム成熟の時代。量的成長は困難になり、環境変動の影響を強く受けた。
3. 文明成熟期は、次世代の文明を模索する時代。歴史的経験を生かしてFuture Earth構想を推進し、持続可能な社会を構築しよう。

# 江戸時代に対する評価

- 福沢諭吉『福翁自伝』:「封建制度は親の仇でござる」
- 和辻哲郎『鎖国一日本の悲劇』:科学的合理性の欠如



- 近代経済成長の前提条件とつくった:経済社会化(市場、貨幣、商品、経済合理性、インフラ、高い生産力)。と高い生活水準。ただし労働集約化の方向に向かった(「勤勉革命」)
- 持続可能な社会としての評価:節約、再利用、リサイクルによる循環型社会(「拡大クローズド・システム」)。簡素な豊かさ。⇒成熟社会のモデル

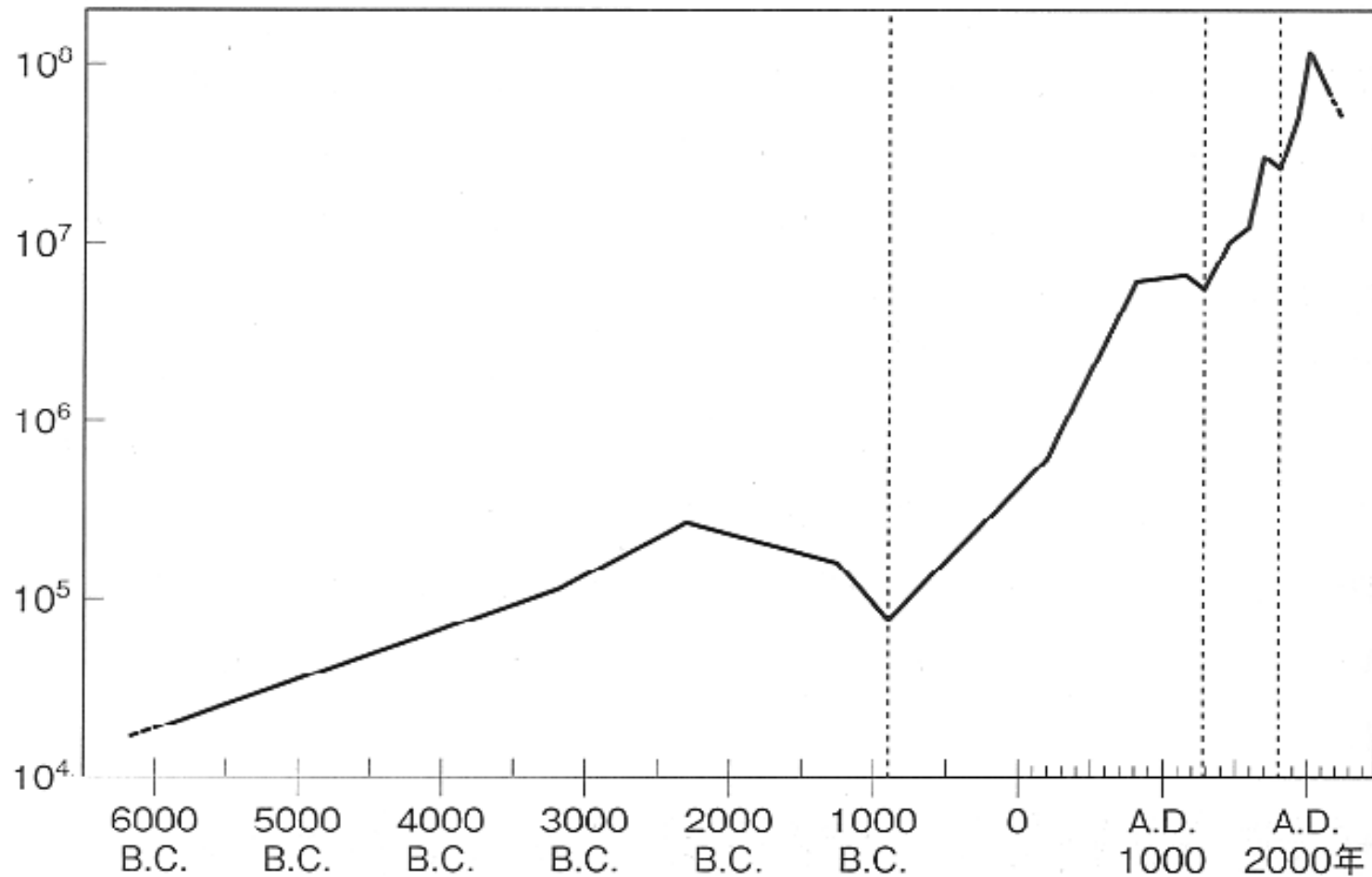
# 江戸時代に学ぶ現代的意味

- 徳川文明 「ゆっくりと営まれ成熟しやがて崩れていった一つの完成した独特の文明体」(芳賀徹)／「十八世紀初頭に確立し、十九世紀を通じて存続した古い日本の生活様式」(渡辺京二)



- 文明の成熟期をどのように生きるか？
- 人口減退は特徴の一つ。次の文明システムを胚胎する大事な時期。
- 江戸時代は持続可能な発展のモデルか？

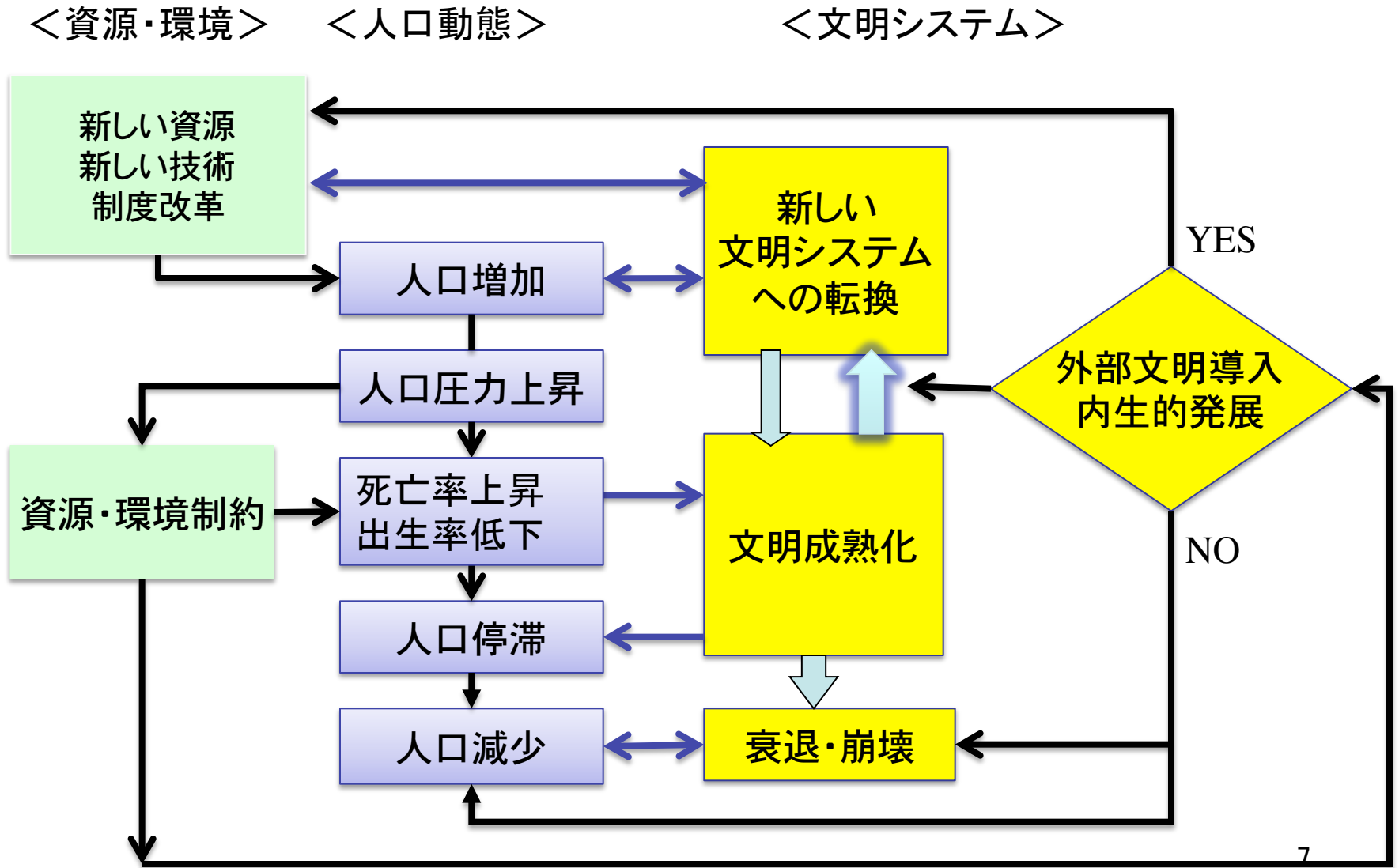
# 日本列島の人口: 4つの波



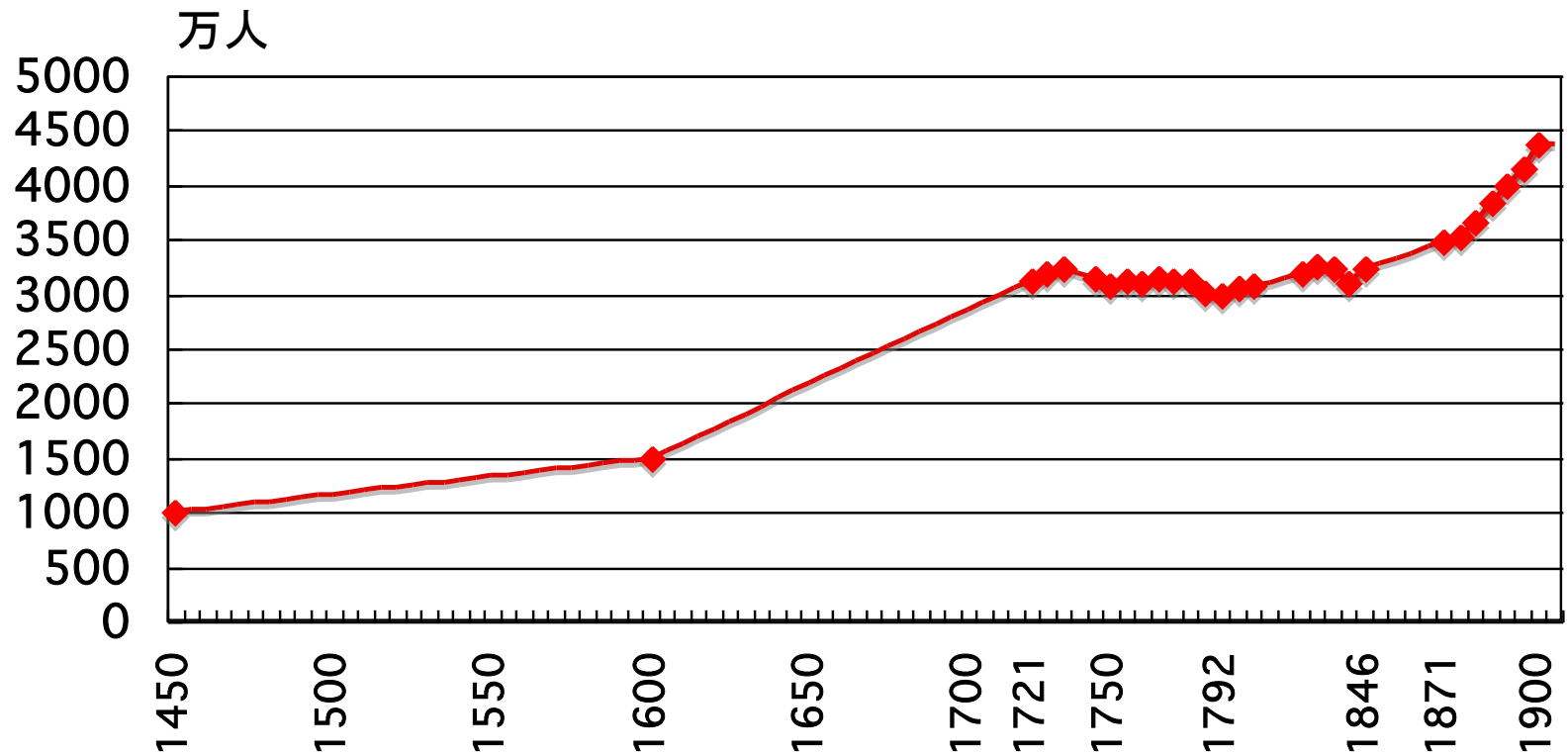
# 日本列島の文明システム

文明システム	1 縄文	2 水稻農耕化	3 経済社会化	4 工業化	5 ?
時代	縄文	弥生～鎌倉	室町～江戸	明治～	21世紀?～
最大人口 密度 (人/km <sup>2</sup> )	0.9 (縄文中期 4300年前)	24 (平安末期 1150年頃)	112 (文政11年 1828年)	339 (2008年)	?
文明の段階	自然社会	農業社会	農業社会	産業社会	脱産業社会?
主要エネルギー資源 (食料以外)	生物・人力	生物(牛馬) 人力・自然力 (風力・水力) (有機経済)	生物(牛馬) 人力・自然力 (風力・水力) (高度有機経済)	鉱物 (石炭・石油・天然ガス・ウラン) ・自然力(水力) (鉱物エネルギー経済)	再生可能エネルギー (脱炭素社会)
主要な 経済様式	伝統 (採取・狩猟・漁労)	伝統 + 指令	伝統 + 指令 + 市場	市場 + 指令 (税・社会保険料)	市場 + 指令 + 伝統 (家政・互酬)

# 文明システムの転換モデル(試案)



# 人口変化：第3の波



注 1450年人口はFarrisにより、1600年は1500万人として作図。



# 江戸後半人口停滞の解釈

- 1) 寒冷化の影響(小氷期)→三大飢饉(享保・天明・天保)

江戸後期の特徴は低い潜在増加率(斎藤修)

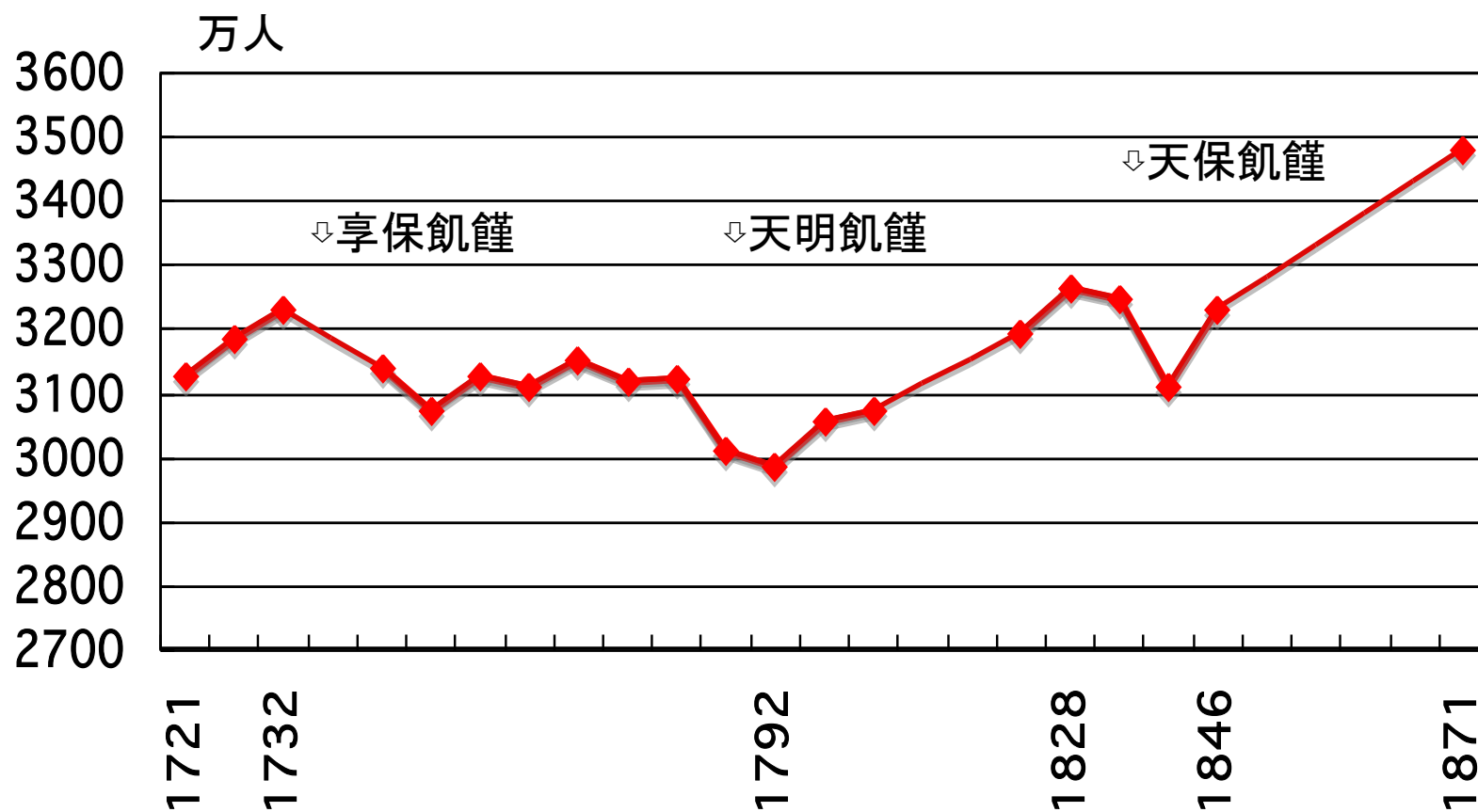


- 2) 成熟社会：文明システム固有の環境収容力の上限に近づき、人口成長が困難になる。

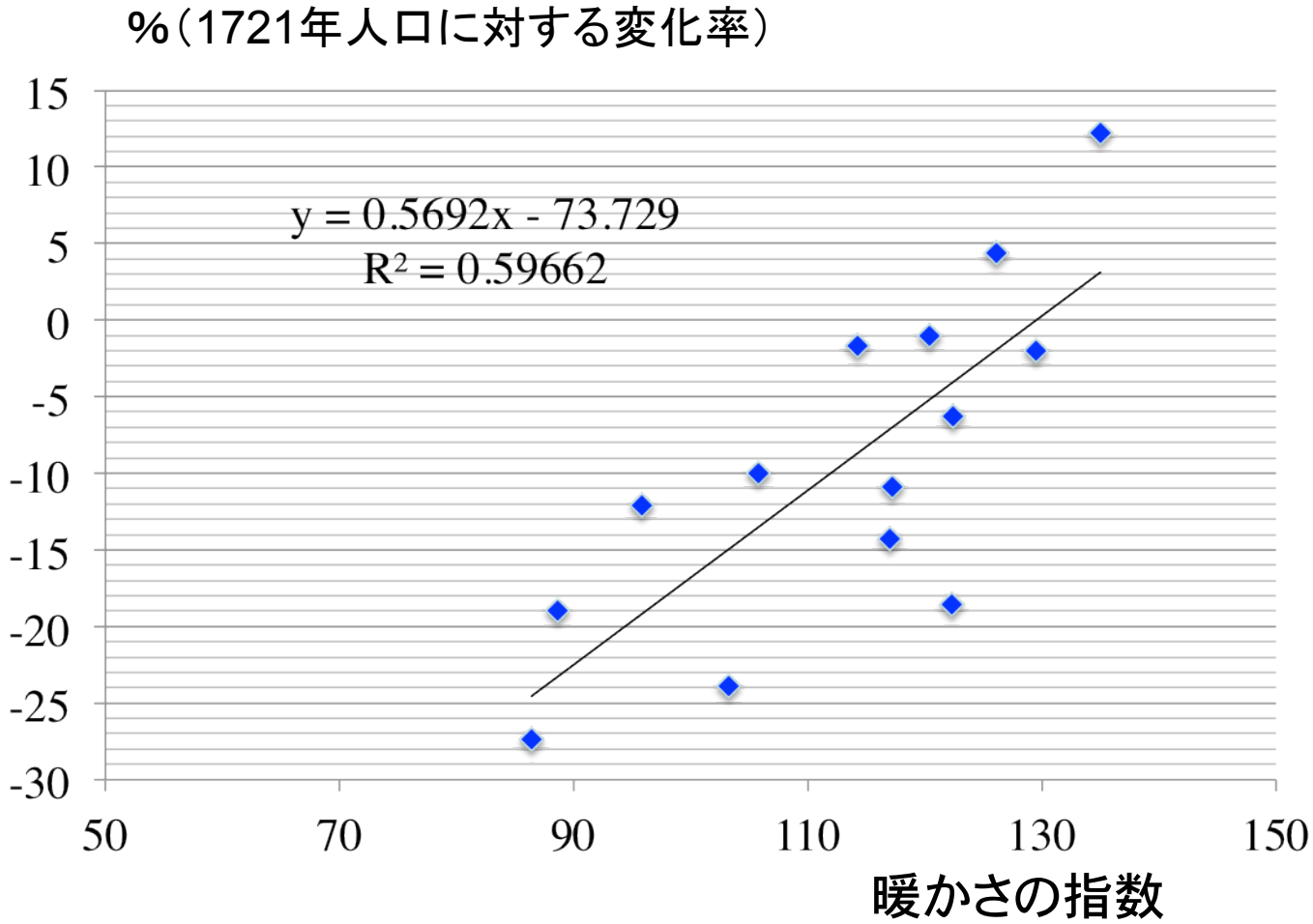
江戸時代は「高度有機経済」(E.A.Wrigley)

市場経済化した農業社会→耕地,森林,草地,水などの環境資源の取得困難が成長の限界。

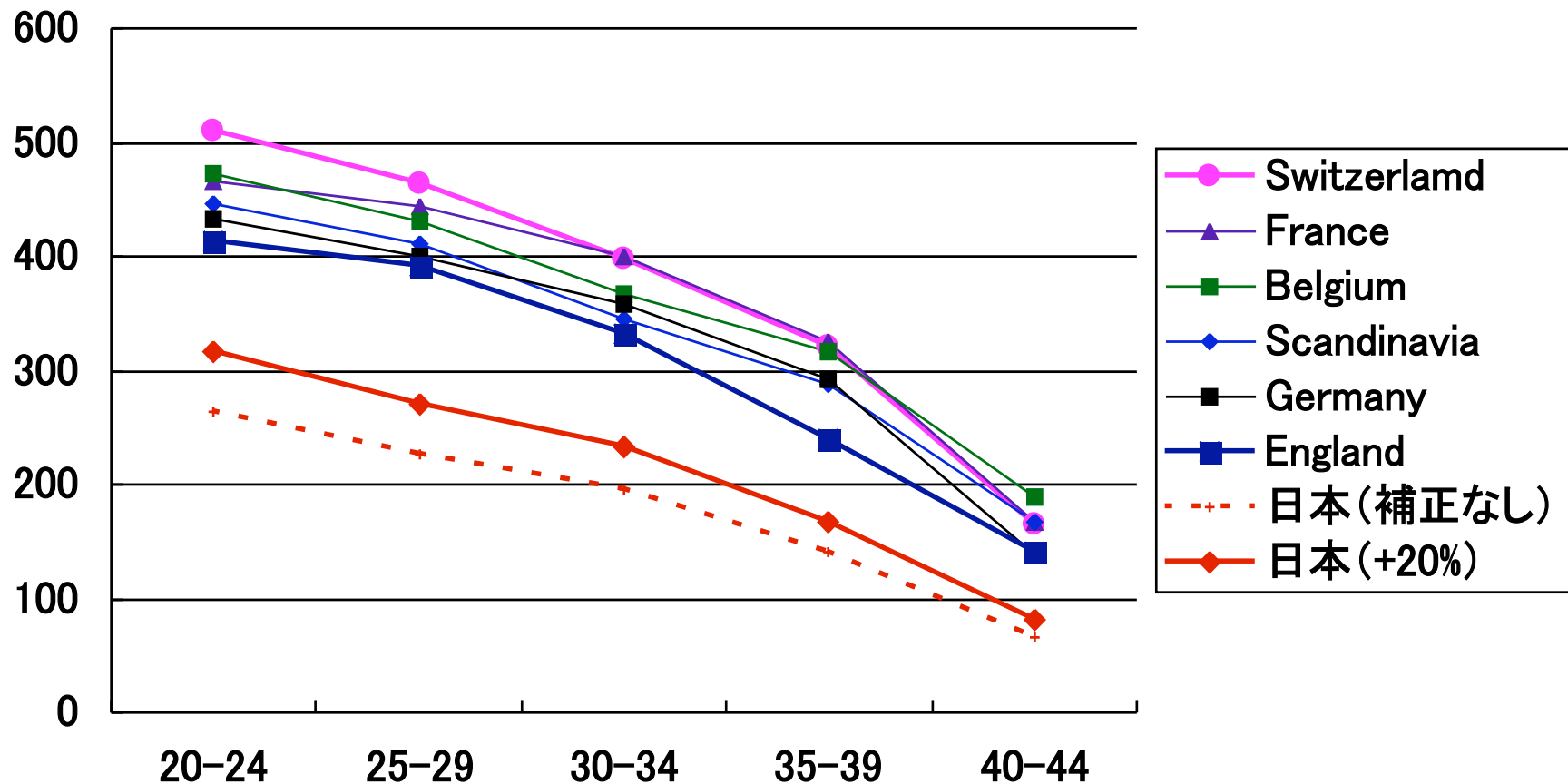
# 江戸時代後半の人口変化



# 地域別災害年人口変化と暖かさの指数



## 比較：前工業化期の年齢別有配偶出生率

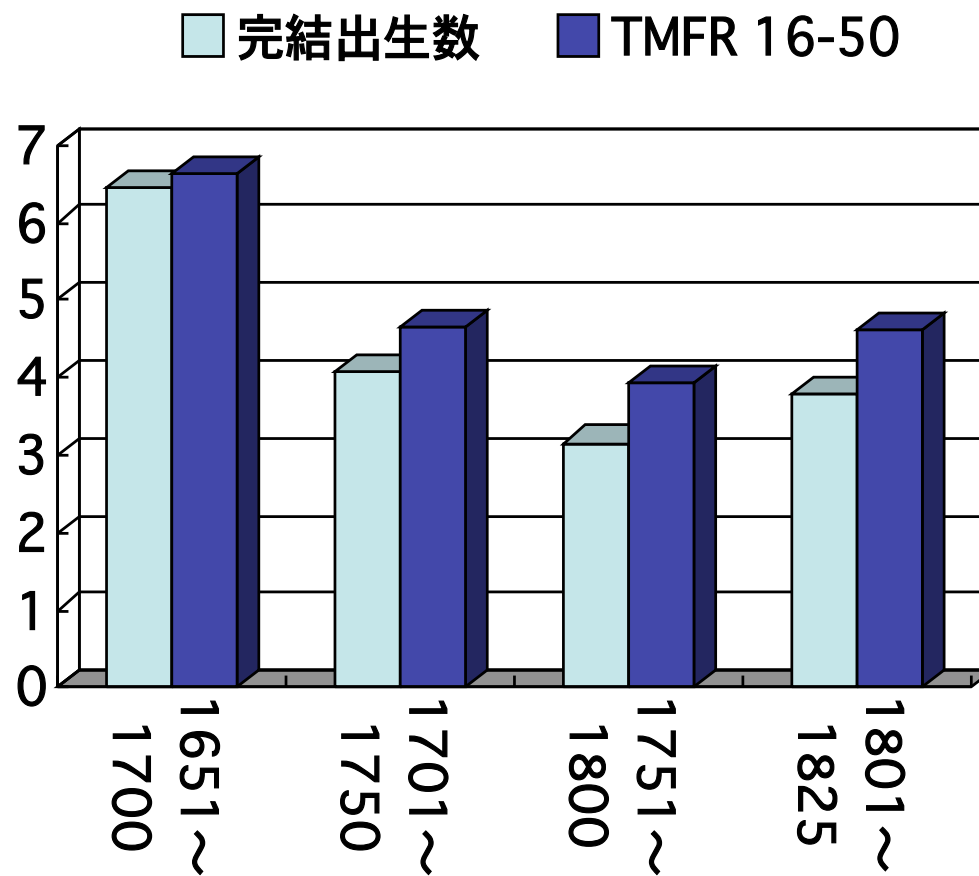


西欧(1750年以前): Flinn, *The European Demographic System, 1500-1820*.

日本(1875年以前): 鬼頭「前近代日本の出生力—高出生率は事実だったか」<sup>12</sup>

# 江戸時代に少子化が起きた

## 信州横内村の出生力(妻の出生年代別)



(速水融『近世農村の歴史人口学的研究』)

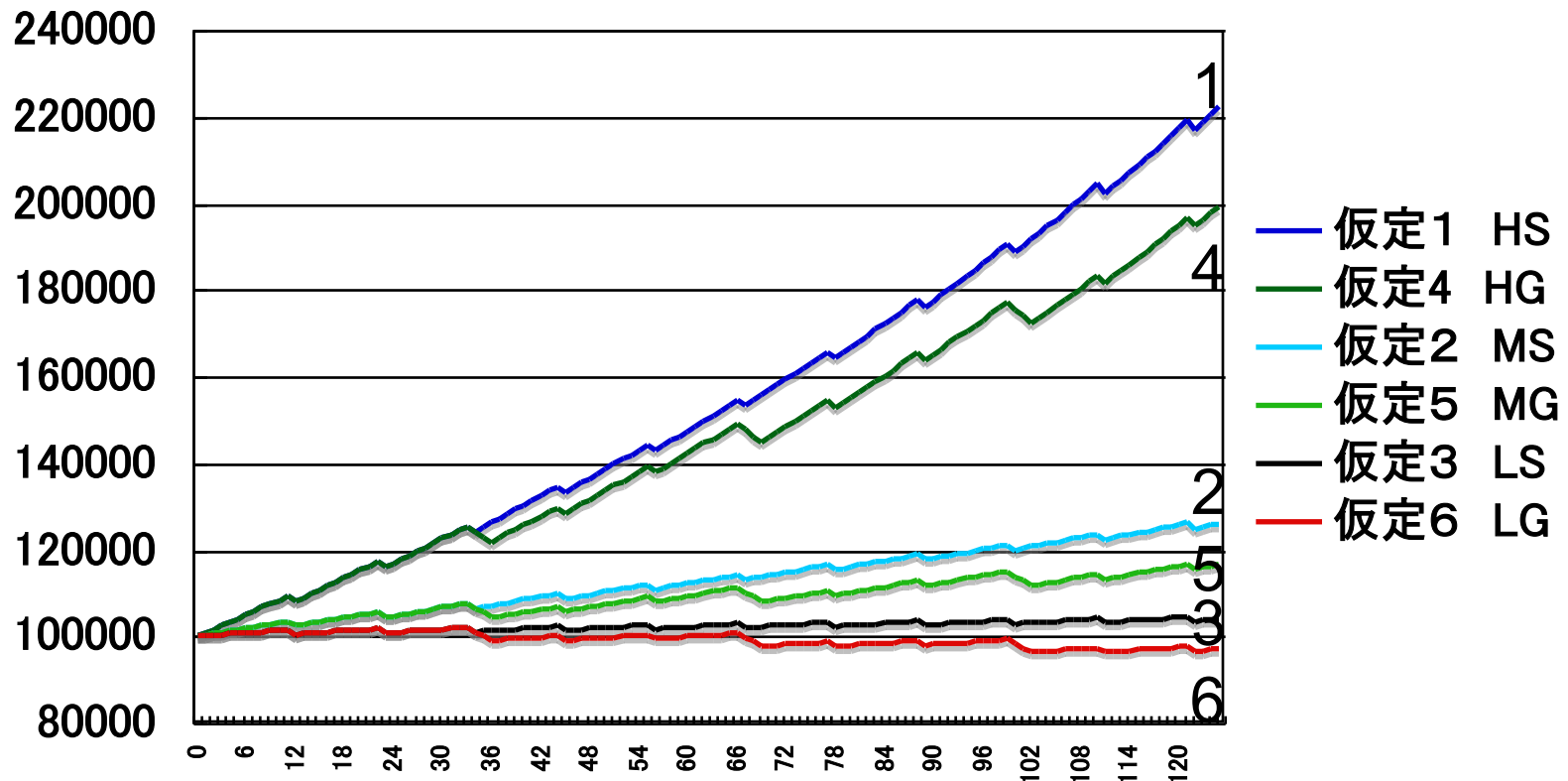
# 「東国」の合計出生率：長期変動



(Fabian Drixler)

# 比較: 6つの仮定

-災害頻度が大きくても(G)、出生率が高ければ(H)人口は増加する-



凡例: 出生率 H 高、中 M、低 L。災害頻度 G 大、S 小。

# 元禄～享保：成熟社会への転換

- 環境史から見た元禄期

人口密度は現在のカンボジア、マレーシア程度。

人間の居住範囲が拡大し、野生鳥獣との摩擦が高まった。

人口増加により低コストで開発可能な余地が少なくなった。

水、草地、森林などの資源が身近にえられなくなってきた。

- 諸国山川掟 寛文6年(1666)／貞享元年(1684)

熊沢蕃山(1619~91)『大学或問』

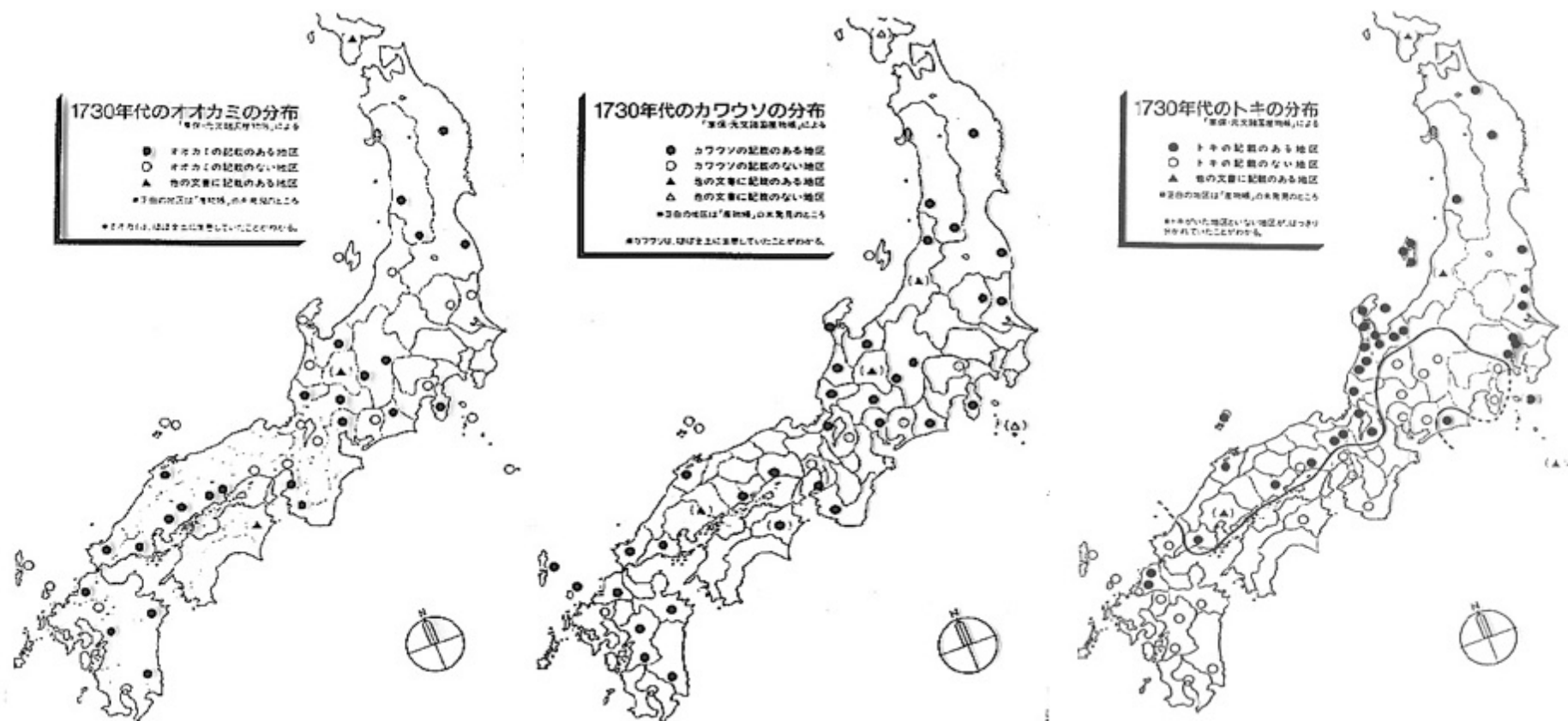
- 分地制限令 延宝元年(1673)／正徳3年(1713)

- 高度成長から成熟社会へ。

成長の質的転換：プロト工業化＝繊維(麻・木綿・絹)、醸造(酒・醤油・噌・味醂)、陶磁器、漆器)



# 享保・元文期(1730年代)の野生動物の分布 —諸国産物帳による—



出所: 安田健『江戸諸国産物帳—丹羽正伯の人と仕事—』

# 江戸の3R業（三谷一馬『江戸商売図絵』）



貸本屋



眼鏡売り



江戸の雪駄直し



雪駄の歯直し



錠前直し



羅宇屋



焼接師



鏡研ぎ



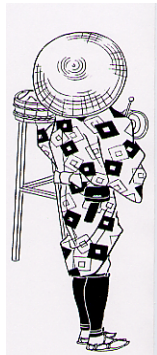
障子の張替え



箍屋



鑄掛屋



取替べえ飴売り



古碗買い



古傘買い



紙屑拾い



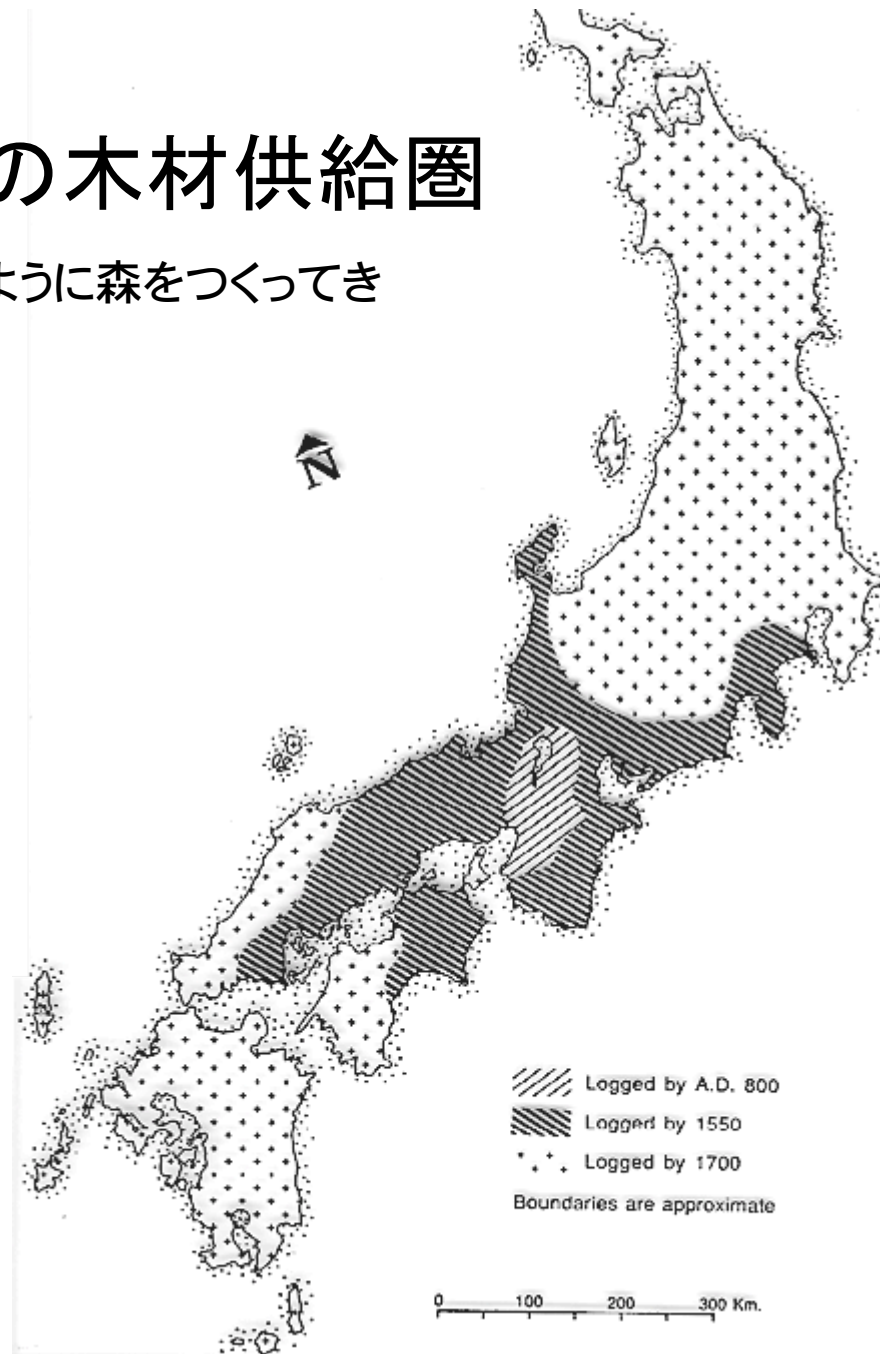
紙屑買い



古着売り

# 記念的建造物への木材供給圏

C. タットマン『日本人はどのように森をつくってきたのか』



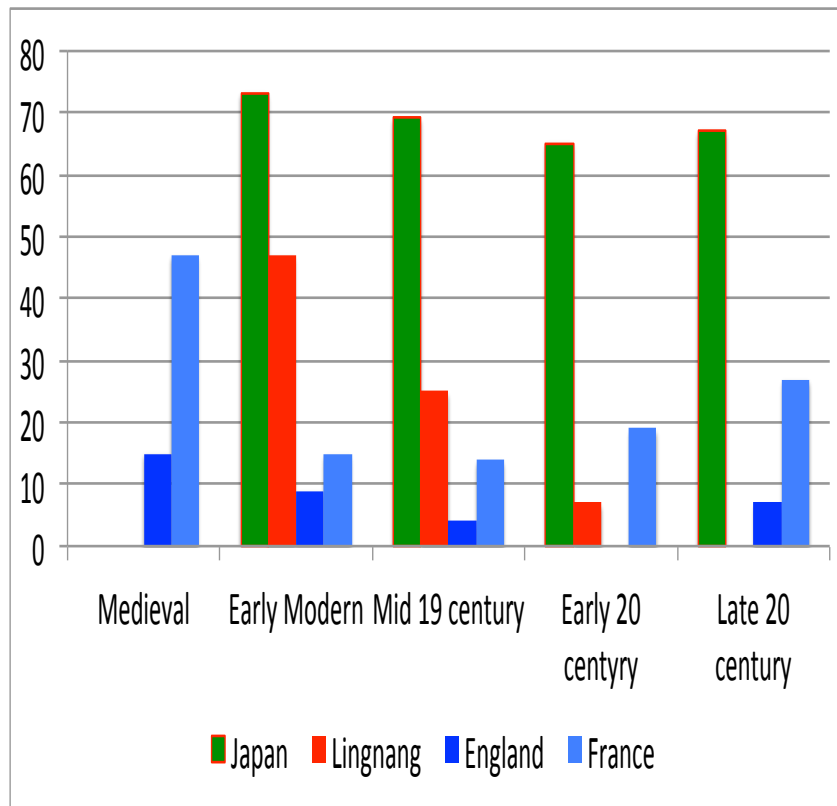
# 諸国山川掟

- 一 近年ハ草木之根迄堀取候故、風雨之時ハ川筋江土砂流出水行滞候之間、自今以後、草木之根堀取候儀、可為停止事
  - 一 川上左右之山方木立無之所ニハ、當春より木苗を植付、土砂不流落様可仕事
  - 一 従前々之川筋河原等ニ、新規之田畑起候儀、或竹木葭萱を仕立、新規之致築出、迫川面申間敷事  
附、山中焼畑、新規ニ仕間敷事
- 右之條々堅可相守之、来年御検使被遣、掟之趣違背無之哉、可為見分之旨、御代官中江可相触者也
- 寛文六年二月二日（1666年）

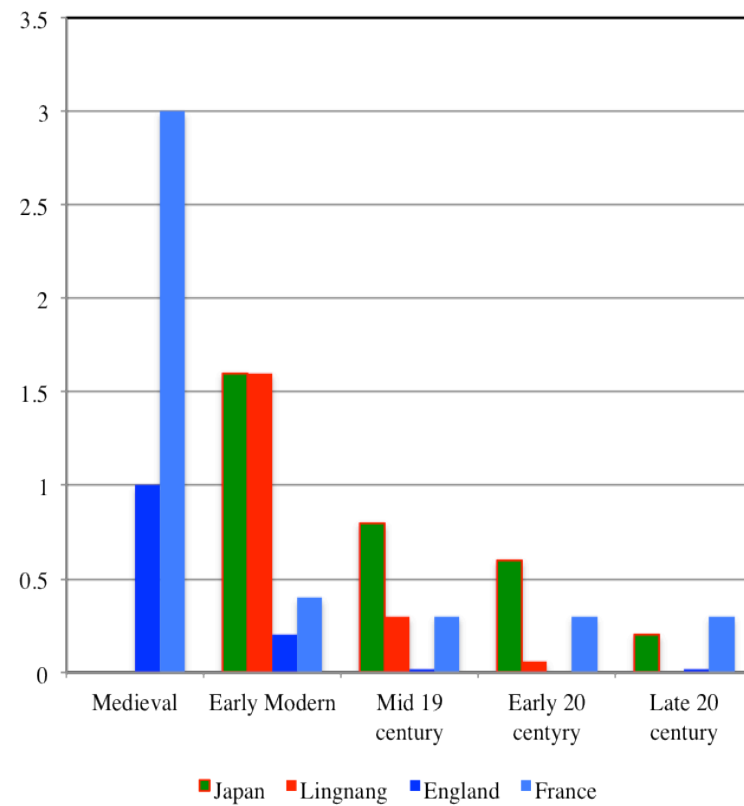
# 森林資源の比較

—イギリス・フランス・中国(嶺南地方)・日本—

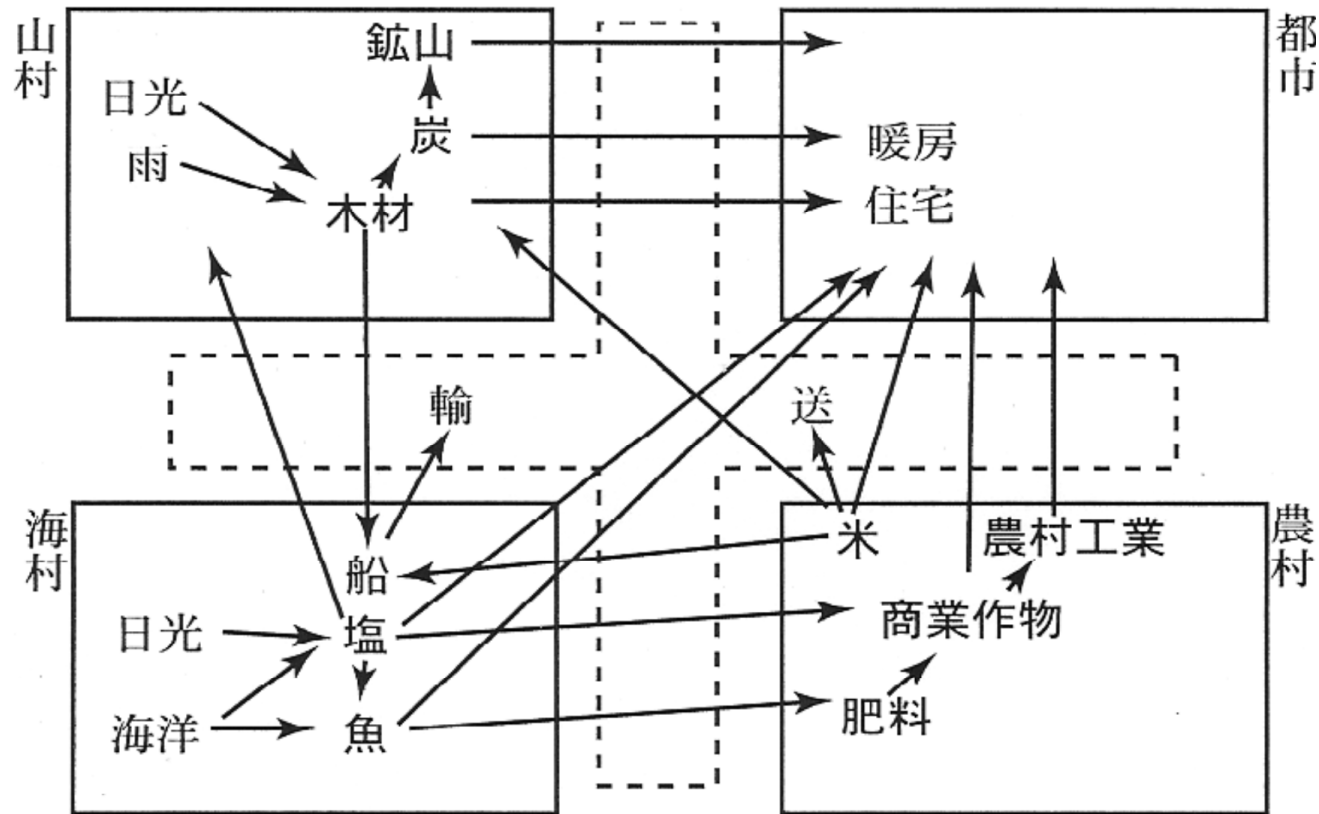
## 森林面積割合(%)



## 1人当たり森林面積 (ha)



# 拡大したクローズドシステム：内田星美原図



農業社会：エネルギー資源は、薪炭、蠟・水油、役畜、人力、風・水に依存。

畿内・西日本で二毛作が普及、17世紀に労働集約的農業が成立。

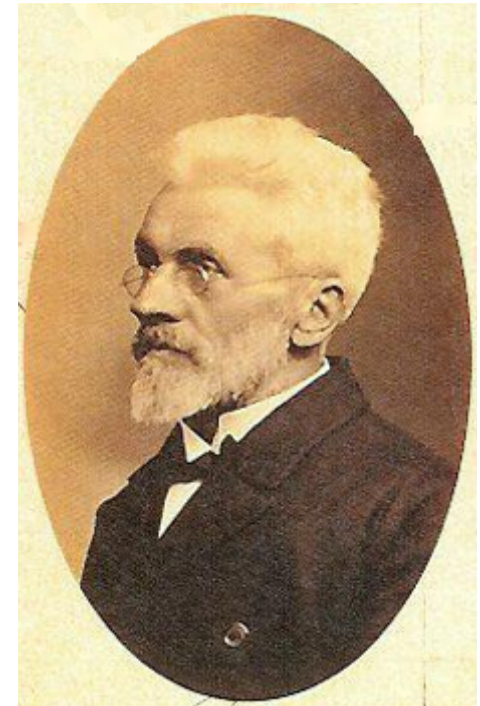
市場経済(経済社会化)：江戸時代は市場経済化が進んだ時代である。22

# 明治初期：日本の山が荒れている

- ・デ・レイケ 1873年来日
- ・淀川流域視察：山々の荒廃を指摘
- ・砂防ダム建設  
河川堤防建設、港湾浚渫
- ・山林伐採禁止を説く
- ・「わら網工」による緑化事業推進
- ・「(常願寺川は)川でなく滝」伝説



「小滝群が存在しない事が特徴」  
(小滝群がないと流速が速く、洪水  
の破壊力が大きくなる)



J. De Rijke  
1842-1939

(上林好一『日本の川を甦らせた技師デ・レイケ』草思社 2002)

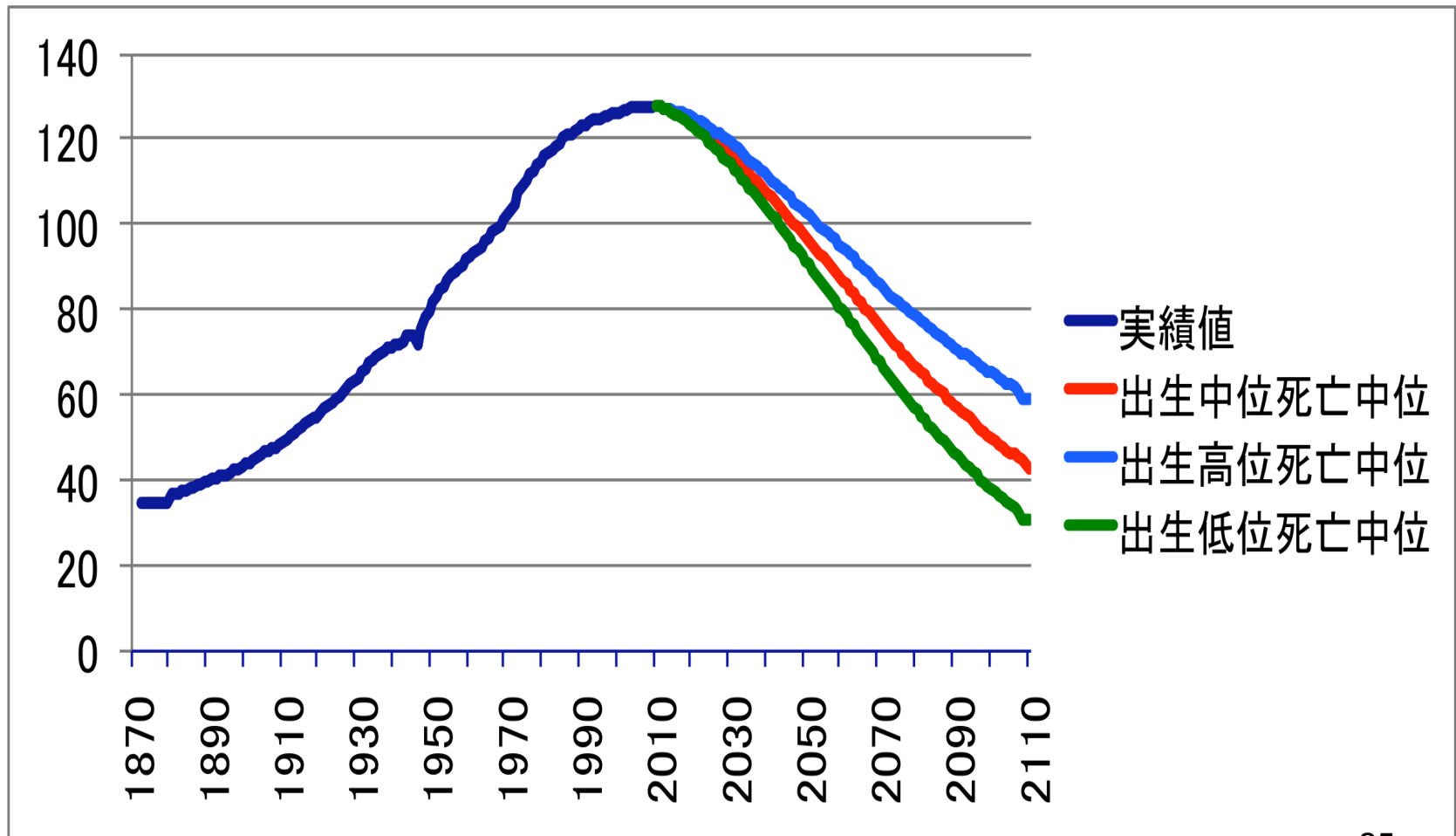
# 江戸時代の公害(安藤精一『近世公害史の研究』)

農業	新田開発	洩水、湛水、逆水、悪水、汚水、土砂流入、砂押込み、用水不足、塩風・塩付・荒浜(防風林伐採)
	山地開発	入会地消失(採草、採餌、燃料)、用水不足
林業	伐木	川水減少、用水不足、洪水、塩害(防風林)
漁業	白魚漁	土手崩壊
食品	塩	燃料不足、石炭焼き殻、土砂流出
	寒天	塩気、あく、燃料不足
肥料	干鰯	臭気
	蒸肥	土手損傷
窯業	陶器・瓦	煙害(養蚕、樹木、農作物への害)
鉱業	金、銀、銅、鉄、鉛、白、石灰、緑礬、弁柄、火打石、石切、金石、石油、石灰	川床上昇(土砂)、洪水、田畑荒廃、悪水、毒水、金汁、煙害、毒気、燃料不足、地盤沈下、温泉水温低下、たたり(荒天、降水)
交通	通船、川船、尿積舟	井堰妨害、農業用水不足、土砂堆積、悪水
	荷車、牛車、べか車、大八車、地車、牛馬繫留	往来妨害、溝蓋・道橋破損
動力	水車	出水時の危険、用水不足、湛水、悪水、舟運支障
都市生活	塵埃	河川投棄による洪水、用水支障、水道汚染
	白壁	反射光(漁業不振)



# 減少する日本人口

国立社会保障・人口問題研究所 2012年推計

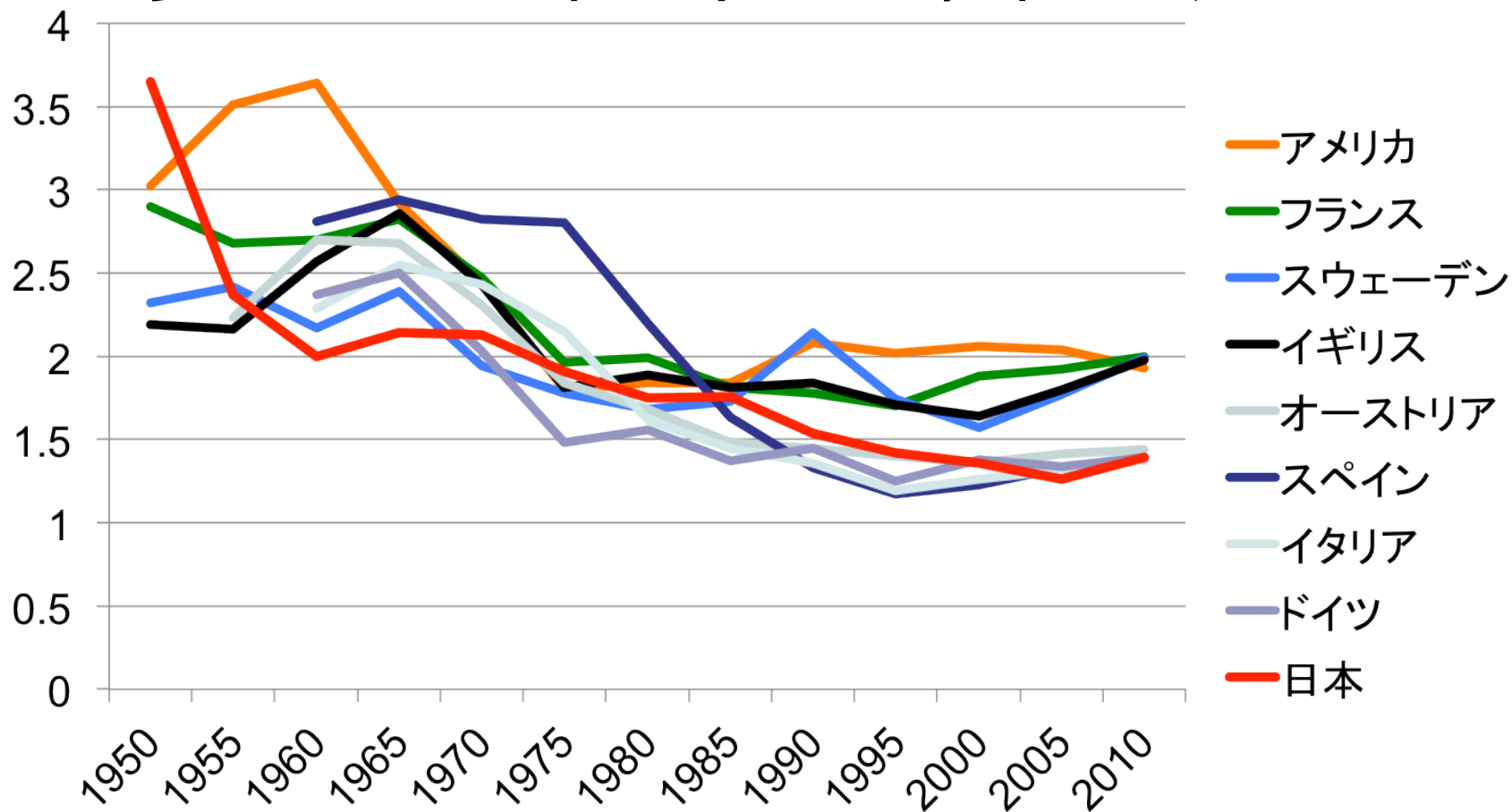


# 日本の少子化：3つの「必然」

1. 人口転換の最終局面としての少子化：豊かになれば出生率は低下→一時は人口置換水準を割るものの、いずれ静止人口に接近する
2. 国家目標としての少子化：人口爆発、資源・環境問題の深刻化は、静止人口の実現を求めた→早期達成のために1.0以下の純再生産率実現が求められた。
3. 超低出生率国に共通する要因：家族制度やジェンダー観にもとづく結婚、出産の抑制要因

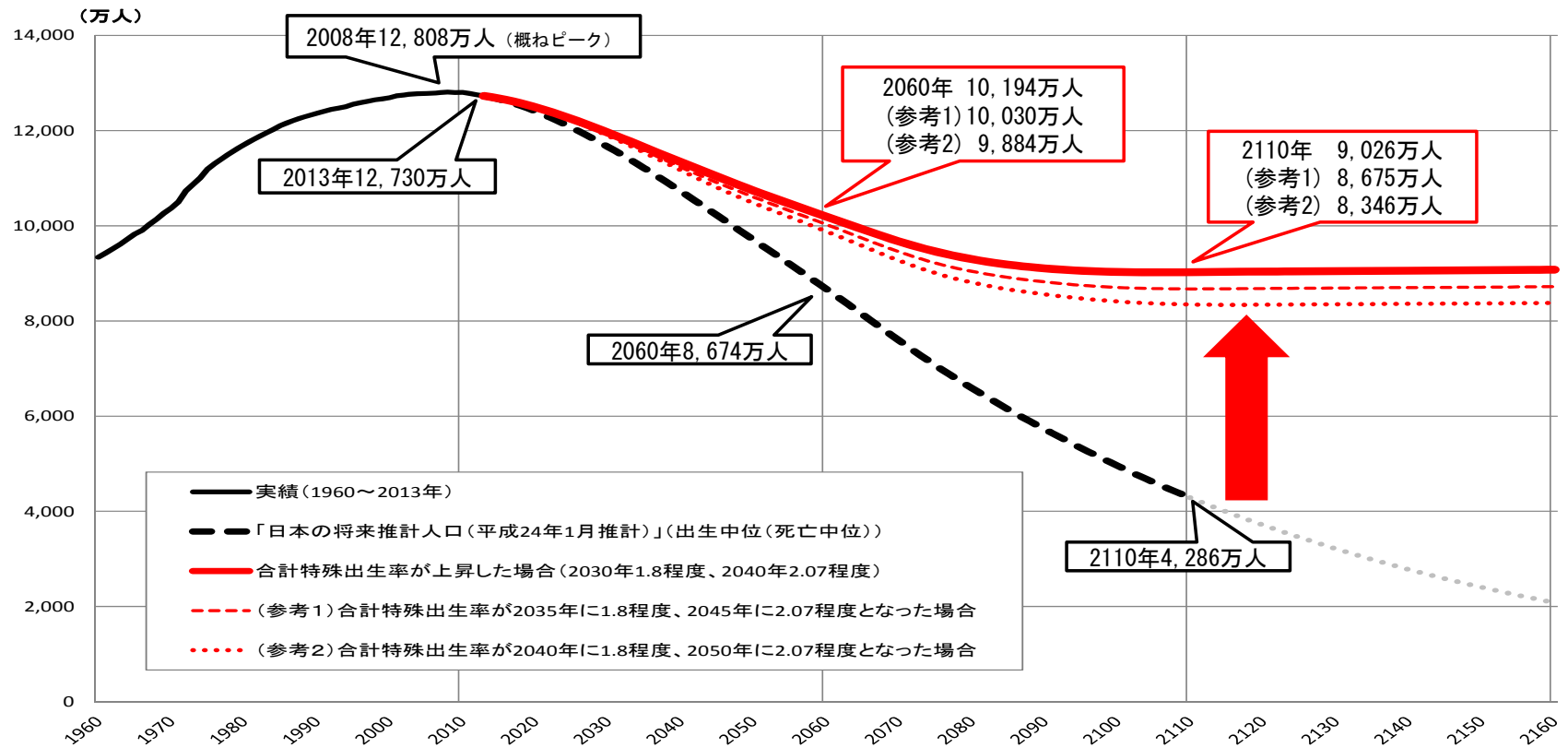
# 主要先進国の合計特殊出生率

-少子化は70年代半ばに集中して起きた-



# 国の長期ビジョン

-出生率が回復しても人口が安定するには時間がかかる-



(注1)実績は、総務省統計局「国勢調査」等による(各年10月1日現在の人口)。国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」は出生中位(死亡中位)の仮定による。2110~2160年の点線は2110年までの仮定等をもとに、まち・ひと・しごと創生本部事務局において機械的に延長したものである。

(注2)「合計特殊出生率が上昇した場合」は、経済財政諮問会議専門調査会「選択する未来」委員会における人口の将来推計を参考にしながら、合計特殊出生率が2030年に1.8程度、2040年に2.07程度(2020年には1.6程度)となった場合について、まち・ひと・しごと創生本部事務局において推計を行ったものである。

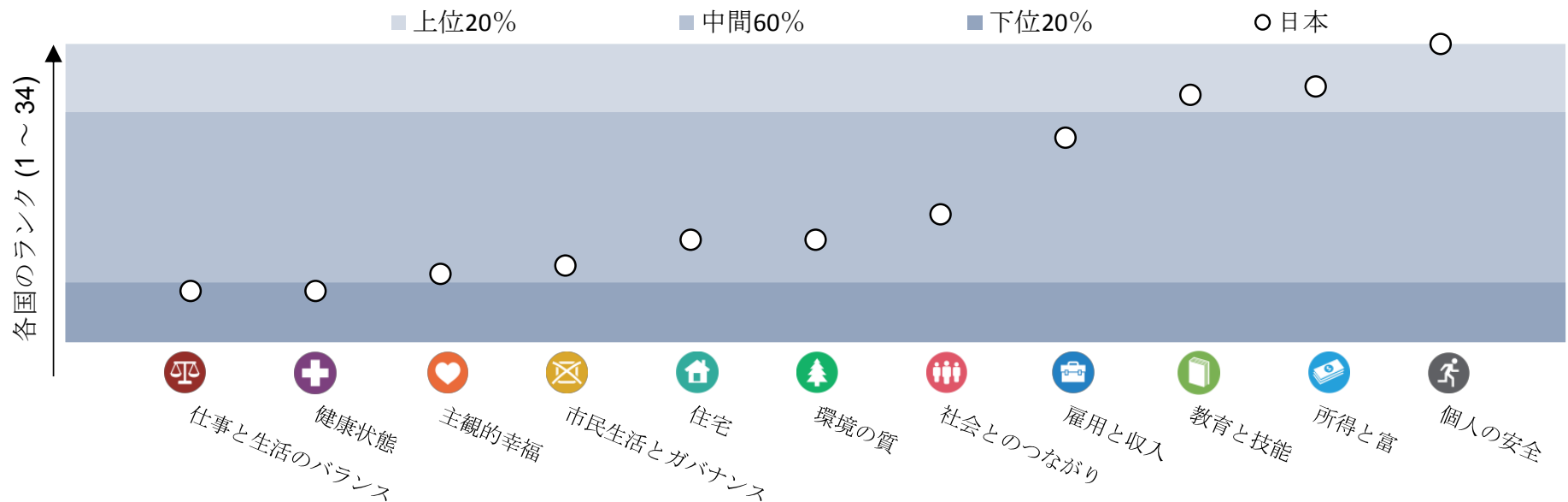
# 21世紀文明をデザインする

- 国の長期ビジョン: 出生率を人口置換水準(2.07)へ回復させ(2040年)、人口を安定化させる: 21世紀末に9000万人。「静止人口」の実現(1974年の国家目標)。



- 超高齢化社会=長くなったライフサイクルへの適応: 高齢者の概念、高齢者の生活支援、高齢者自身の人生設計。
- 人口縮小社会への適応: 社会規模のダウンサイジング(縮減)にかかわらず、快適な都市、豊かな地方を形成して、持続可能な社会を実現する(「自立・共生・循環・持続」: 新たな国土形成、集落・都市の再編成。)
- 新しい豊かさの実現: GDPの成長だけではない豊かさ(例: OECDのWell-being指標)。

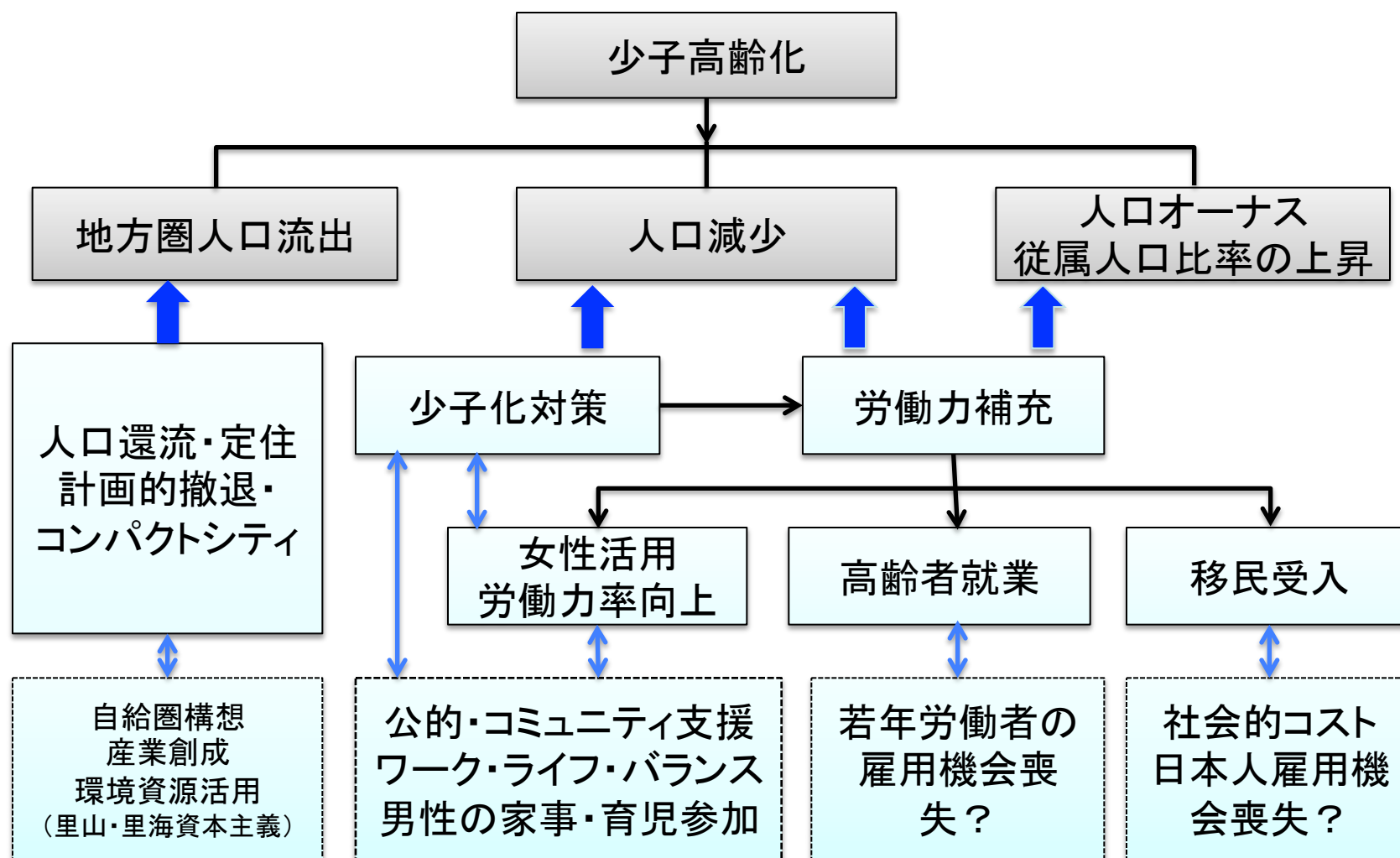
# 「人々を惹つけ憧れを呼ぶ、日本の理想郷を創る」 地域の魅力とは何か？ -OECDのWell-being指標-



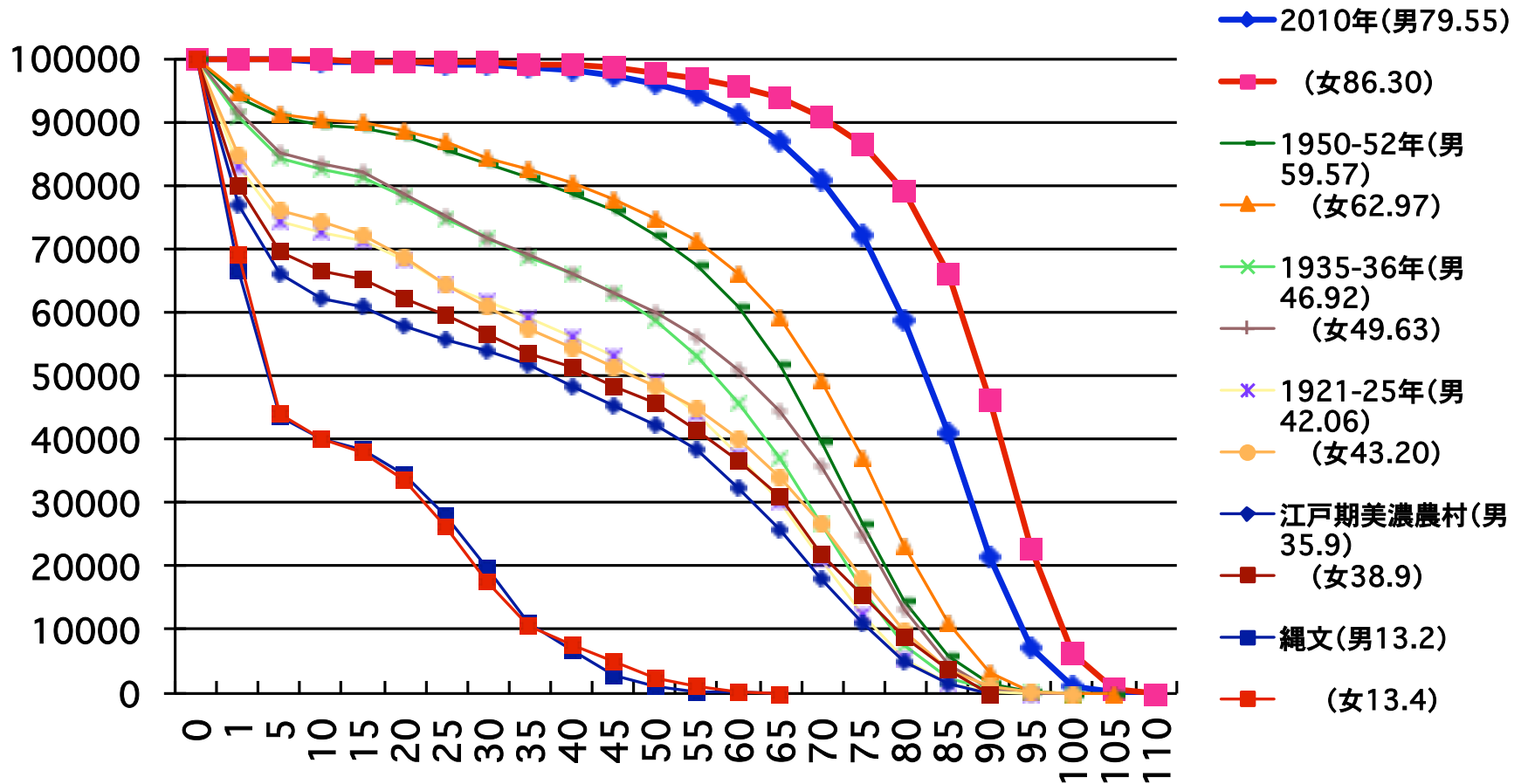
日本の「幸福度」(2014年)

OECD加盟国中の順位: 34カ国 (EU 21カ国 その他 13カ国)

# 人口減少対策の課題：新しい文明への転換



# 生存率の比較(出生=10万人)

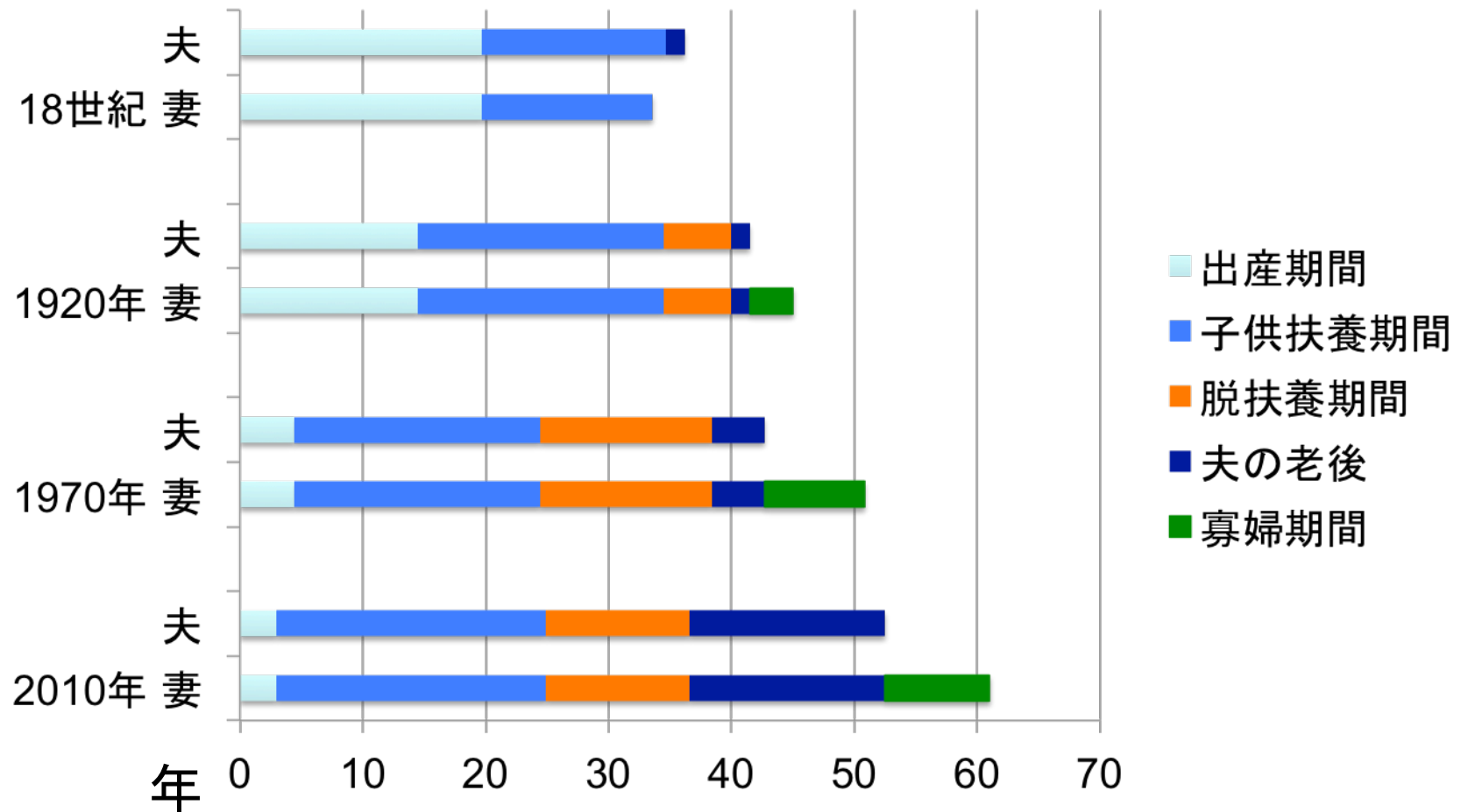


注: 縄文時代は小林和正のデータにPrinceton Model South 1を適用、美濃農村は斎藤(1992)、1921/21年以後は政府統計による。



# 結婚のライフサイクル

-脱子供扶養期間・老後が長くなった-



注: 1) 江戸時代は美濃農村の例。近代は人口動態統計による平均値。  
 2) 子供扶養期間は、ここでは末子の出生から成人までの期間。

# 課題と目的：文明の危機の克服

- 産業文明の成熟化→持続可能な循環型文明の構築。
- 極端な市場経済化、指令経済化(税と社会保障費の負担)→「家政 (oikonomia)」・「互酬 (reciprocity)」(伝統・慣習経済)の見直し。
- 世帯、地域社会の解体→新しい人のつながり。
- 長寿化→ライフ・サイクル、ライフ・コースの見直し。

# 理念：自主・自立・共生・循環による 持続可能な地域の追求

- 自主：住民自らの判断で地域の将来を設計する。
- 自立：財政的自立を目指す。エネルギー、食料の自地域内給率を高める。
- 共生：孤立した自給自足が目標ではなく、自治体間の共生と生態系との共生を実現する。
- 循環：地域内の自治体、地方圏、国、海外諸国との間の循環（交易）、地域生態系、地球生態系における循環。

# もっと知りたい方に

- 『人口から読む日本の歴史』  
講談社学術文庫 2000年
- 『文明としての江戸システム』  
(日本の歴史 19) 講談社学術文庫 2010年
- 『環境先進国・江戸』  
吉川弘文館 2012年